

聖典シリーズ7

# 現世利益和讃

蓬茨祖運



東本願寺出版部

### 『聖典シリーズ』発行にあたり

仏教に関心をもたれる人が近年多くなつてまいつたようであります。「衣食足つて礼節を知る」ということでしょうか。

そうした人から、経典、しょうぎょう聖教について書かれた入門書はないだろうかという質問をよく受けます。もつともなことでありまして、釈尊の教えが書かれている聖教を読んでいただくことは大切なことあります。

そこでここに聖典シリーズとして「八相成道」「嘆仏偈」「重誓偈」「願生偈」「勸衆偈」「二河白道の譬喩」「現世利益和讃」の七種を出版いたすこととなりました。

さて、経典と申しましても、親鸞聖人は数多い経典の中から浄土三部経を所依の経典として選びとつてくださったことあります。今回はこの三部経の中で特に「それ、真実の教をまことのおしえ願ねがはば、すなわち『大無量寿経』これなり」と親鸞聖人が、『教行信証』の中でお示しくださっている『大経』の中の偈うた（詩のこと）の中から日常親しまれている「嘆仏偈」（真宗大谷派勸行集九二頁―九六頁所収）と「重誓偈」（三誓偈ともいう。前記勸行集八九頁―九二頁所収）をおさめています。

仏教は、ご存じのようにインド、中国、朝鮮と三国を伝来して日本に将来されたので

すが、浄土三部経は、各々の地域でその教化をうけた人々によって、偈という形で信仰告白がなされており「願生偈」はインドで天親菩薩により、「勸衆偈」は中国で善導大師によりつくられたものです。これが、前記の經典の中の偈以外に「願生偈」「勸衆偈」を加えた理由であります。

次に、このシリーズには「八相成道」がはいっております。これは釈尊の生涯が八相成道として大経に説かれており、これはまた、仏教の人生観を示すものとして重要なものであります。そして、親鸞聖人の信仰のうたの中から「現世利益和讃」を入れました。今回のこのシリーズは仏教入門として手軽に読んでいただけでしかも内容も確かなものであります。

この聖教シリーズを手がかりに一層仏法の大海へ参入し、人間として生まれた出世本懐をあきらかにしてほしいと思うことであります。

広くご味読いただければ幸いです。

尚、今回、出版をお許しくださった、蓬沢祖運、仲野良俊の両先生にお礼を申し上げます。

## 目次

(本文は本山・出版部発行の真宗聖典による)

### 1 阿弥陀如来来化して

息災延命のためにとて

金光明の寿量品

ときおきたまえるみのりなり……………11

### 2 山家の伝教大師は

国土人民をあわれみて

七難消滅の誦文には

南無阿弥陀仏をとなうべし……………16

解 説

1 阿弥陀如来化して

息災延命のためにとて

金光明の寿量品

ときおきたまえるみのりなり

金光明経寿量品

法然上人の『選択集』には、鎮護国家の三部経の一つとして、『金光明経』をあげてあります。その第二章・寿量品には、つぎのような物語がのっています。

王舎城に信相という在家の菩薩がおりました。釈尊がやがて亡くなられ

ると聞いて、いぶかしくおもいました。

「仏は、不殺生と、食べ物その他にほどこすことが、長生きするみちであるとお教えられた。仏ほど生きものをあわれみ、ながい過去の世にかぎりなくその身を衆生にほどこされた方はない。それなのに、なぜわずか八十年ほどの短い命しかないのでしょうか」

すると、東西南北の四方にそれぞれ阿闍仏・無量寿仏・宝相仏・微妙声仏が宝華に乗ってあらわれ、

「信相よ、そのように思うてはならない。釈迦牟尼仏の寿命はかぎりがないのである。八十年で亡くなられるというのは、お慈悲をもつて、仮に示されるのである。そのわけは、いつまでもこの世に生きておいでになれば、衆生はいつでも聞くことができると思つて、法を聞くやうとしないから、いそいで聞かねばもう聞けないときとらせるために、亡くなられる姿をおみせになるのだ。仏の寿命は無量寿である」

と説き聞かせられました。

それで、信相も釈尊のもとにまいって、不審をおたずねするといふのです。その不審とは、信相はあるとき、夢に金の太鼓をみました。日光の炎のように、その金の光ががやくと、その太鼓から仏の説法が流れ出し、神主さまのようなものが、太鼓をどんどんとならしていたといふのであります。

仏の説法は、三千大千世界の苦しみ、災厄を滅し、一切衆生を無量寿に帰せしめるということにつくされます。これを平凡なことばでいえば、息災延命ということになります。われわれ凡人は、いつも息災延命をねがって生きておりますが、それをあらわすのが祭りの太鼓ではないでしょうか。そういうわれわれが、無量寿如来の本願に帰せば、無始よりこのかたの災厄、三千大千世界の苦難が滅し、無上涅槃の証りに入られると、親鸞聖人は示されたのであります。『金光明経』の寿量品は、四方四仏の説法

であります。その無量寿とは仏のお慈悲の無限をあらわすのでありますから、無量寿仏、すなわち阿弥陀如来が来化して説かれたと示されたのであります。

### 現世利益の意味

親鸞聖人の教えは、またし達の現在の人生において、真実の信心を獲れば、しちじょうじゆ正定聚の位に入り、無上涅槃を証すべき身と定まるといふことにはありません。また、このご利益にまさるご利益というものはないのであります。これを一言で現生不退ひつことといい、『大無量寿経』には「一念に大利無上功德」を、信ずるもの身に具足すると示されています。それなのに、ここに現世利益を示されているのはどういふわけでありましょうか。さきに『金光明経』は鎮護国家の経典として、わが国に用いられたといふことを申しましたが、この鎮護国家といふのは、今日のことといえ

社会の平和ということでもあります。社会に安らかさがなくて、どうしてわれわれ凡人の安らかさがありましようか。聖人は念仏によつて利己的なご利益をねがうことをするどく否定されています。しかし念仏を真実に信ずるものには、社会を安らかにする功德があたえられる。これが現世利益の意味であります。